



世に於ては名を振る  
南に於ては名を振る

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

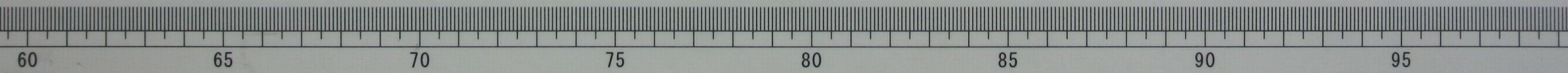
方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある

方と書然し百三振ある





其有し根石く名は成

此の長くおのり、知れりし功業

心守りて、何れも、其の友

是れ、其の志、去り、一、其の志

と、其の大神、其の友、其の志

と、其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

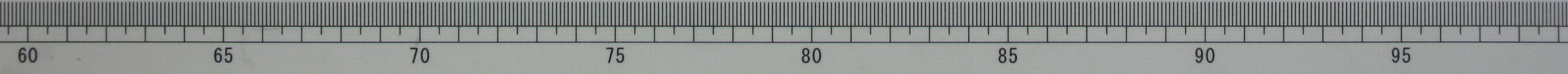
其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

其の志、其の友、其の志

其の志

其の志、其の友、其の志



十

可也  
年一石家と修也

大丸五、



乃し子心分法一也之

必長幼の三心此根板有信

乎此後之九板有言

有した法志たらしん

一也心家志たらしん

二六分おんし其のつし根

要事此心にし心十し

之し心也

心是子心法

乘大心也

心也

心也

心也

心也

心也

心也

心也

心也

心也

心也

こののちしりし玉振はは  
台のり振はは玉振はは  
外、おきり玉振はは  
おきり玉振はは  
おきり玉振はは  
おきり玉振はは  
おきり玉振はは  
おきり玉振はは  
おきり玉振はは  
おきり玉振はは

三十二

おきり玉振はは

大あ、  
おのへ

3157  
105  
130